

「宮城県行財政運営・改革方針(第1期)」の進行管理における実績評価の実施方法
イメージ(議論の叩き台)

1. 進行管理の実施により目指す方向性

- 行政改革の取組の評価については、これまで、各担当課が取組ごとに A～C の評点をつけることにより実施し、「見える化」を図ってきた。
- 「宮城県行財政運営・改革方針(第1期)」(計画期間:令和3～6年度)の進行管理に当たっては、評価の目的を今一度整理し、「行革の取組の実効性の確保」「先導的な取組の庁内への波及」「職員の取組意欲の喚起」につながるような評価を目指したいと考えている。
- 現段階における事務局の評価の実施方法のイメージは、次のとおり。
 - ・行政経営推進委員会の委員に、実施状況報告を基に、先導的な取組であり他にも波及させたい取組、今後県が注力すべき取組、改善に向けた助言・激励などをコメントしていただきたい。
 - ・事務局において上記を取りまとめて公表するとともに、庁内で共有して更なる取組を促していきたい。
 - ・併せて、代表的な指標を検討して、毎年度モニタリングして公表することも検討している。

2. 行政経営推進委員会の委員の評価シート【定性評価】

(1)令和3年度実施状況に対する総評

(2)評価できる取組(3～5程度)

取組名	評価できる点	更なる改善に向けた助言
(例)ふるさと納税の利便性の向上		

(3)改善により成果が期待できる取組(3～5程度)

取組名	改善に向けた助言
(例)オンライン化の推進	

(4)その他

3. 指標設定【定量評価】

取組項目	指標(目標)のイメージ
財政基盤の強化	(検討中)
組織体制の強化	
DXの推進	

※第1期目標:「持続可能な行財政運営に向けて、財政基盤と組織体制を強化するとともに、DXを通じて業務そのものやプロセスの変革を進めます。」